

行不由徑

ゆくに
よみち
よらず

その八

ゆくにふあん

「支え合い・助け合い」活動の可視化・共有化



助け合いは労働組合の原型であり労働運動の原点

労働組合はイギリスで生まれ、近代工業社会の成立とともに発展していきまが、それ以前に「職人クラブ」といわれるものがあり、これが労働組合の原型といわれています。パプで職人仲間が集まって、情報交換をしたり、仕事の紹介をしたり、少額のお金をパプの経営者に預けて仲間同士の助け合いに使っていました。これが労働運動の原点です。こうした仲間同士の助け合いの精神は、共済運動となつて今日にも引き継がれています。さらに、「仲間」の意味合いも、同じ職業・職場という枠組みだけでなく、同じ地域、同じ故郷など、さまざまつながりでの支え合い運動が広がっていきました。

2015年9月25日、国連の全加盟国によって「持続可能な開発目標(SDGs) アジェンダ2030」が採択されました。

SDGsは、「誰一人取り残されることのない」を共通の理念とする17の目標の実現をめざしています。これらの目標を達成することで、貧困・飢餓の撲滅や、健康福祉の充実、ディーセント・ワークの実現、気候変動回避、ジェンダー平等などの、多様性と包摂性のある社会が構築できます。今、日本は貧困と格差が拡大し、社会の持続可能性が危機に瀕していると言つても過言ではない状況にあります。SDGsは、わが国においても私たち一人ひとりが向き合う課題として取り組んでいかねばならない運動です。

「ゆくにふあん」でユニオンのファンを増やしたい

連合は結成当初から、「連合・愛のカーパ」として構成組織(加盟単組)・地方連合会・地域協議会、一般国民などからカンパを集約し、毎年約1億円余を、志を同じくするNGO・NPOに資金提供し

ています。また、大規模災害で被災された方へのカンパ贈呈やボランティア活動を通じて支援活動を行ってきました。構成組織(加盟単組)・地方連合会・地域協議会など、労働組合が自ら取り組んでいるものもあるし、NGO・NPOなどの取り組みを労働組合が支援しているものもあります。

しかし、せっかく労働組合が支援しているにもかかわらず、その周囲にある別の労働組合にそのことが知られていない事例も少なくありません。労働組合や組合員一人ひとりの「志」と「信念」が活かしきれていないことや、連合の社会的な取り組みが知られていないという問題もあります。

こうした課題の解決策として、すでに各地に存在し、取り組まれている「支え合い・助け合い」の活動を可視化・共有化する仕組みを作り、運動を広げていくことにしました。この運動の愛称は「ゆ

にふあん」です。ユニオンのファンを増やしたいという願いから名付けられました。具体的には次のようなものになります。

「ゆくにふあんマップ」の開設

まずは、「ゆくにふあんマップ」を連合ウェブサイトに開設し、ここへさまざま「支え合い・助け合い」の活動を掲載するようにします。これにより、誰が、どこで、何を目的に、どのような取り組みを行っているのか、誰もがインターネットを通じて情報を得ることができます。そして、組合員、その家族をはじめ、「ゆくにふあんマップ」を訪れた人々に向けて、連合の活動を周知・広報し、連合の認知度を高めるほか、連合に対する理解・共感につなげることが可能となります。また、NGO・NPOと労働組合とで新たな活動領域の広がりが期待できます。

「ゆくにふあん」活動への参加や支援

「ゆくにふあんマップ」から提供された情報から、日常の取り組みやイベントへの参加やボランティア活動などを呼びかけることで、全国のNGO・NPOをつなぎ、連合とのネットワークを形成することができるようになります。また、従来から構成組織(加盟単組)・地方連合会・地域協議会が取り組んでいる物資提供型の支

援(食料、古着、古本、郵便切手、書き損じ郵便葉書、プリペイドカードなどの提供)も呼びかけていきます。

「ゆくにふあんイベントカレンダー」の活用

「ゆくにふあんマップ」に掲載する活動の中には、ある特定の行事・目的に資金の支援を強く求めている事例もあることから、近年、社会的に広がりを見せているクラウドファンディングの手法も採用します。クラウドファンディングは個人の意思と選択にもとづく直接的な資金提供の手法で、①実行者(資金を求める者)が資金調達したいと考える活動などをインターネットに掲載する、②支援者(資金を出す者)がインターネットに掲載された活動などの趣旨や目的に賛同した場合に資金提供する、という過程を経て、多くの人から支援を募る仕組みのことです。

タイムリーな情報提供と連帯行動

なぜこのような活動が必要なのか、少し堅い話になりますが、ここで「ゆくにふあん」にかける想いを述べてみたいと思います。

第1に、連合の地域の取り組みの中に、すでに「支え合い・助け合い運動」(ゆくにふあん)の実践があるということです。地域には、

行政だけでは担うことができない草の根の運動があり、地域の関係団体との永年に亘る協力関係のもと、現地、現場で築き上げられた貴重な知見が蓄積されています。これらの知見を共有し、地域で働く仲間の関与と参加があれば、さらに運動が発展していくことが期待できます。

第2に、せっかく良い活動をしていても、連合の組合員に、こうした情報が伝達されていないということがあります。連合は、組合員はもとより、すべての働く者のための社会改革の運動に取り組んでおり、地域での実践事例もあります。構成組織(加盟単組)・地方連合会・地域協議会の中、または相互の情報提供が不十分であるために情報の共有がなされていません。同じような悩みを抱えているところもあります。地域でどのような問題を抱え、それを克服するためにどのような取り組みがなされているか、そこにどのような参加機会があるのかをビジュアルに示す必要があると思います。

第3に、人はその危機感を共有したとき、自主的に連帯した行動を起こすということです。大震災でのボランティア活動やカンパ、リーマンショックの時の雇用・就労支援の取り組みなどでも経験したことです。それを喚起するためには、連帯行動を待つ人々が、どこにどれだけ存在

ゆにふあんマップの概要と閲覧者の活動支援の流れ

(画像はイメージです)

1 「ゆにふあんマップ」の地図や検索から地域や内容ごとに活動を探す。



するかタイムリーな情報の提供と、連帯の呼びかけが必要です。きっかけがあれば人は動きます。
人々が心の中でもっている「志（こころざし）」と「信念（おもい）」を推進力として、連合の「ゆにふあん」運動を築いていきたいというのが、これを立ち上

2 該当する活動一覧が表示。



げた理由です。
「ゆにふあん」活動を理解していただくため、「ゆにふあん」に関する連合組織内外の理解促進、取り組み事例の先行紹介、取り組み事例の登録促進などを目的に、「ゆにふあん」の予告動画を制作し、6月6日以降、組織内に展開します。

3 活動の詳細情報が表示。



「ゆにふあんマップ」は10月1日から正式に公開されます。今年、連合結成30年という節目の年にあたります。「ゆにふあん」が、連合組合員の皆さんの「志（こころざし）」をつなぎ、社会との絆を強め、連合運動が地域からも評価されるものにしていきたいと願っています。

4-1 物資提供
(フードバンクなど)

4-2 ボランティアや
イベント参加

4-3 資金支援
(外部のクラウドファンディングサイトから支援)